

原 強 プ 第 1 9 号
2 0 2 2 年 3 月 2 9 日

島 根 県 知 事 丸 山 達 也 様

中国電力株式会社
代表取締役副社長執行役員
原子力強化プロジェクト長
重 藤 隆 文

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

2022年3月8日に開催された、第27回原子力安全文化有識者会議の議事概要
について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月
19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたしま
す。

添付資料

第27回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以 上

第27回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2022年3月8日(火) 13時10分～16時
- 開催場所 島根県立産業交流会館 くにびきメッセ 小ホール
- 出席者 【社外委員】梅林委員, 亀城委員, 児玉委員, 高尾委員, 豊田委員(座長), 野津委員
※山浦委員は欠席
【社内委員】芦谷副社長 ※北野取締役は欠席
【幹事】重藤原子力強化プロジェクト長

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(重藤幹事)

- ・島根原子力発電所2号機については、昨年9月15日に原子力規制委員会から原子炉設置変更許可をいただくとともに、本年2月17日には立地自治体である松江市から島根2号機の再稼働について安全協定に基づく事前了解をいただいている。
- ・当社としては、他の立地自治体および周辺自治体からも再稼働の同意をいただけるよう丁寧な対応に努めるとともに、発電所の安全対策工事についても引き続き安全第一で進めてまいります。
- ・今後、同様の不適切事案が発生しないよう、当社および協力会社が一体となって再発防止対策にしっかりと取り組むとともに、有識者会議でのご意見・ご提言を今後の取組みにきちんと反映し、原子力安全文化醸成の一層の強化に努めたいと考えているので、本日はぜひとも忌憚のないご意見・ご提言を賜りたい。

2. 議事

(1) 点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて

資料にもとづき、高田電源事業本部部長および川本原子力強化プロジェクト部長から説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

〔「不適合管理プロセスの運用状況」に対する意見〕

- ・不適合管理プロセスの運用においては、「包み隠さずできているか」「全員が参加しているか」が大事であり、事象そのものの対策だけで終わらせるのではなく、その背後に隠れている心理的要因への対策までできるかどうかが大変重要である。

〔「お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大」に対する意見〕

- ・コロナ禍にあっても、工夫して住民の方々との関わりの機会を維持されていることに、中国電力のこだわりの姿勢を見るような気がした。一つひとつ大変丁寧に尽力され、対応されていることも十分にうかがえる。ぜひ今後も継続してほしい。

〔「原子力安全文化意識調査アンケート結果」に対する意見〕

- ・9割の人が肯定的な意見を回答した結果を、「9割の安心」と捉えるのか、それとも「1割の不安」と捉えるのかということ、もう一段深く掘り下げた方が良いのではないかと。

- ・安全については、「8割や9割で意識が高い」ということではない。発電所に関わる何千人のうちの一によって不適切事案が起こるものである以上、ほぼすべての人が安全を意識してもらわないと、安全は絶対に実現しない。

[その他意見]

- ・原子力発電所が稼働していない状況下では、社員の士気の低下が多少なりとも見られるのではないだろうか。
- ・2号機の原子炉設置変更許可が出され、大きな山を一つクリアした状況の中、それぞれの社員が色々な思いを持って、中には非常にストレスを抱えた方もいるだろうし、そうなると必然的にたがが緩むようなことが起こるのではないかと思う。これからまだ作業が残っているのだから、たがを締め直して、地域住民が不安にならないように対策を講じてほしい。

(2) 原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料にもとづき、高田電源事業本部部長から説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・過去の失敗や不適切事案から学ぶことにより、安全に対する組織風土や安全文化の醸成につなげていくよう、今後も取組みを継続してほしい。
- ・中国電力と協力会社が現場で直接話をしてコミュニケーションを図り、信頼関係を築いたうえで仕事が重要だと思うので、そのような対話の機会をより設けてほしい。

(3) 点検不備問題等に係る再発防止策および原子力安全文化醸成活動の総括

資料にもとづき、高田電源事業本部部長から説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・有識者会議の場だけではなく、もっと分かりやすい形で、地域住民が中国電力の取り組んできた原子力安全文化醸成活動について評価すべきである。
- ・社長なりトップの信念のようなものを簡単な言葉で分かりやすく訴えていくということは非常に大切である。
- ・中国電力の取組みの成果が地域住民に伝わらないと困るので、「これだけの手順を踏んできた」「こういう理想に燃えています」等の内容をもっと盛り込むべき。
- ・これから再稼働に向けて、地元の皆さんと顔を合わせて話をする機会がもう少し必要になってくるのではないか。事務職の社員よりも、むしろ現場で働く運転員等の思いや決意といった点について話を聞くことができると、より地元の安心感につながっていくものと思う。

- ・原子力発電所へのテロ活動や火山噴火に伴う津波など最近の様々な事象に対する不安を和らげるような、また安心を与えてくれるような話を中国電力からしてほしい。
- ・2号機が再稼働したら、今までとは違うような不安や様々な問題等が生じることと思ひ。再稼働に向けた教育システムはきちんと整備されているとは思ひが、社員のメンタル面についても、きめ細かく気を配ってもらえるようなシステム（仕組み）を作してほしい。

(4) 情報提供：島根原子力発電所 新規制基準適合性審査の状況等について

資料にもとづき、三村電源事業本部部長から情報提供を行った。

(5) 情報提供：地域の皆さまへの広報活動について

資料にもとづき、原田島根原子力本部部長から情報提供を行った。

3. 閉会あいさつ（重藤幹事）

- ・本日も様々なご意見やご提言を賜り感謝申し上げます。
- ・今回も多くのご懸念、ご心配およびご指摘をいただいた。まず「発電所の長期間の停止による社員の士気の低下が心配である」というご心配。そして「大きな山を越えたということで、心理的にたがが緩んでいる部分が出てくるのではないか」というご懸念。また「再稼働に向け、稼働を経験したことのない多くの社員の訓練と、彼ら・彼女たちの不安の解消といった問題がある」というご指摘。これらに加え、大局的なものとして「ウクライナ問題等を契機としたエネルギー事情や原子力に対する社会や地域の皆さまの不安をどう解消していくのか」というご心配。更にはアンケート結果を分析していただきながら、「9割に安心するのではなくて、1割への心配と対応が大事である」というご指摘である。
- ・今回は、点検不備問題を契機とする原子力安全文化醸成活動について、10年以上にわたる当社の取組みを一旦総括させていただいた。これらについては一定の評価をいただいたと考えてはいるが、当社の安全への取組みはこれで終わりではない。ご指摘にもあつたとおり、「今までの取組みを改めて客観的に評価し、これから更に何に取り組んでいくのか」ということをしっかり考えてまいる。また、この評価に基づいたトップからのメッセージの発信等も考えていきたい。
- ・また、委員からいただいた「こだわりを持って、大事な活動については継続してほしい」というお言葉にも留意し、これからも活動してまいる。
- ・本日もいただいたご意見やご提言を踏まえ、当社および協力会社が一体となって再発防止対策に継続してしっかり取り組み、原子力安全文化醸成の一層の強化に努めたい。また、こうした取組み状況については、今後も有識者会議でご報告するので、変わらぬご支援を賜るようお願い申し上げます。

以上